

埼玉会館エスプラナード展 2025 “活けること”

SAITAMA HALL Esplanade ART Exhibition 2025

2025.3/1(Sat)-23(Sun)

伊藤博史、石上城行、みのちよく（澤村みのり）、高島芳幸、高田芳樹、田中千鶴子、仁木智之、
細川麻実子、本多真理子、松下誠子、山本鐘互

主催：埼玉会館エスプラナード展実行委員会

共催：（公財）埼玉県芸術文化振興財団

協力：美術と街巡り・浦和、Gramercy Fine Art NY.、株式会社制作美術研究所

埼玉会館 WEB サイト

<https://www.saf.or.jp/saitama/information/detail/103331/>

伊藤 博史
ITO Hiroshi

「UNTITLED-2025」

素材：土、紙、スチール、mixed media

敢えて言葉にすると、空体かな～

1948 愛媛県生まれ
1972 愛知県立芸術大学彫刻科卒業
1974 愛知県立芸術大学大学院彫刻科終了
個展

2024 -01 SPC GALLERY.....茅場町／東京
2023 -08 Toki Art Space.....青山／東京
2019 -12 SPC GALLERY.....茅場町／東京
2013 -10 SPC GALLERY.....茅場町／東京
2012 -Oct/05 CAAA Centro para os Assuntos da Arte
~ Oct.27.....Guimarraes / ポルトガル
2006 -09 ギャラリー現.....銀座／東京
2005 -09 SPC GALLERY.....茅場町／東京
2002 -09 DIC COLOR SQUARE.....東京
2000 -07 ラップランド芸術評議会より フィンランド
~09.....最初のアーティストとして招待される
1998 -05 ときわ画廊.....東京
.....
1979 -03 真木画廊.....東京
1977 -09 真木画廊.....東京
1977 -01 田村画廊.....東京
1976 -06 真木画廊.....東京
1975 -06 田村画廊.....東京
グループ展
2024- 07 SPRIT PRODUCTS CO.2024 / SPC
GALLERY-.....茅場町／東京
2021 -06~07 2人展 精神産物構想 2021....茅場町／東京
2019 -08 53 十の美術... トキ・アートスペース／東京
2013 -10 GAW 8 in Shinjyuku.....新宿／東京
2011 -06 [廃色] SPC GALLERY.....茅場町／東京
2010 -12 [アートソーコ] 53 展 / 八王子.....東京
2010 -10 [BOTANICALMUSEUM 2010].....埼玉
2010 -07 GAW 展Ⅶパート lin 西脇.....兵庫

2008 -10 [BOTANICALMUSEUM 2008].....埼玉
2006 -09 [Gothic] / 東京都美術館.....東京
2003 -09 [Gothic] / 東京都美術館.....東京
2003 -05 BOTANICALMUSEUM 2001.....埼玉
.....
1976 -05 [さかだちのさかだち] 展
.....神奈川 / 神奈川県民ギャラリー
1975 -07 錦画廊.....名古屋
1973 -08 錦画廊.....名古屋
1971 -10 田村画廊.....東京

石上 城行
IWAGAMI Shiroyuki

「記憶の庭 - 導く者 -」

素材：杉、松

誰もが知っている物語には必ず“導く者”が登場する。
読者（あなた）は登場人物と共に導く者に誘われて“お話の世界”
に入っていく。
導く者が入れ替わったらお話はどう変わるのか。
そこに新たなドラマが生まれ、読者（あなた）は創造者となるだろう。

1999 第14回 富嶽ビエンナーレ展（静岡県立美術館、静岡市）
準大賞受賞
2003 大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2003
（越後妻有 6 市町村、新潟県）
2006 島の写真屋アートプロジェクト
（旧渡辺写真館 倉庫ギャラリー、松江市）
2012 石上城行展 - カタチが生まれるとき -
（スペース・トカトカ、松江市）
2015 上賀茂・千年アート展（上賀茂神社境内、京都市）
2018 石上城行展 - 記憶にふれるとき -
（川越市立美術館、埼玉県）
2019 環境芸術学会 20 周年記念展（増上寺、東京都）
2023 さいたま国際芸術祭 2023（さいたま市内各所、さいたま市）
その他ワークショップやアートプロジェクトの企画・運営に携わる。
現在、埼玉大学教授

みのちよく（澤村 みのり）
Minochock（SAWAMURA Minori）

「風をみる」

素材：寒冷紗と糸、ロープ

窓辺でわずかな風でも捉え揺れるカーテンのように、建物を通り過ぎていく風を見、感じることが出来るように形を与えた。
呼吸するように強く弱く揺れなびく様は、建物や人を通り過ぎていく今そこでしか生じない一つの命のかたち。

和歌山県生まれ、東京都在住。
文教大学教育学部学校教育課程美術専修卒業。現在製靴勉強中。
2011 年 初個展「ひきだし」（埼玉県：KAPL）
2人展「そらいろは」（東京都：古民家美容室・ビードロ）
2016 年 第 2 回かがわ・山なみ芸術祭（香川県）
2018 年 第 3 回かがわ・山なみ芸術祭（香川県）
2020 年 第 4 回かがわ・山なみ芸術祭（香川県）
2022 年 第 5 回かがわ・山なみ芸術祭（香川県）
2023 年 第 30 回実験展（香川県）
2024 年 第 10 回日本シューズベストドレッサー賞クラフトマン部門
グランプリ受賞
第 14 回革のデザインコンテスト プロダクト部門入賞

高島 芳幸
TAKASHIMA Yoshiyuki

「関係 Mar.2025 in 埼玉会館エスプラナードーエスプラナードにシカクをカク」

素材：石膏ボード、レンガなど
設置方法：両面テープ、他
サイズ：500~600×500~600cm（可変）

前川國男の建築の一つである埼玉会館／エスプラナードの空間を歩く。人の歩く動線の入り方、高低差を生かした空間の変化の与え方など、どれをとってもその設計思想と実空間に確固たるものを感じる。今回の作品は、この開放系でありながらモダニズム特有の合理性を有する空間を作品の支持体として捉え、絵画の要素一つである「シカクをカク」という形と行為を時間と共に活ける試みである。

1953 年 茨城県生まれ。
1980 年代より、真木・田村画廊（東京／1988～1999）やギャラリー現（東京／2001～2017）、SPC ギャラリー（東京／2003～2023）、トキ・アートスペース（2020.22／東京）を中心に作品を発表。絵画の成立する基本的な要素を、見ることで描くという行為から絵画を捉え直す作品を発表する。並行して野外や日常的な生活空間を同様に確認していくインスタレーション作品の制作も続けている。
主な展覧会
2023 NOTHING（ギャラリー湯山／十日町）
HAKOBUNE（旧磯浜青少年センター／三浦）
2022 かがわ・山なみ芸術祭 2022
（モモの広場・旧木工所／塩江・香川）13.16.19.20
2019 不在の絵画 倉重光則＋高島芳幸（ギャラリー睦／千葉）
2017 中之条ビエンナーレ 2017
（中之条町旧五反田学校／群馬）09.11.13.15
2009 まつしろ現代美術フェスティバル 2009
（旧松代藩文武館／長野）
2003 平面と立体の間ーインスタレーション・高島芳幸ー
（うらわ美術館／埼玉）
1999 国際現代美術展「波動 1999-2000」
（光州市立美術館／韓国、県民ホール／神奈川）

高田 芳樹
TAKATA Yoshiki

「マーキング【Marking】」

素材：梱包用 PP テープ、合板、塗料、番号札、お絵描きセット ほか

マーキングは「しるしや標識をつけること。自分のなわばりを主張する行為。」とある。今回、ウサギに成り代わり、建築家前川國男の手なる広場の物品や建物にマーキングをした。マークした場、物には建築家の思いと時代の流れ、生活環境の変化まで感じさせられる。マーキングした場所を、建築家の若かりし時代風のポスターの中に記した。71箇所をマークした。探すときのヒントがかかっている。読みにくいがご容赦を。
ゆっくり散歩できる、良い日よりでありますように。

最近の個展
2024 「やどり」Impression XI ギャラリーー由芽（東京・三鷹市）
「傘はそこに置いて」ギャラリー DODO（東京・府中市）
2023 「曖昧な磁針 II」SPC ギャラリー（東京・日本橋）
2022 「生まれる前のこと」Impression X ギャラリーー由芽（東京・三鷹市）
2019 「きわ（際）」ギャラリーうみか（香川・多度津）
グループ展
2024 Art Study [えそら]（山梨・河口湖町）
2023 アートエコーまんのう・呼応（香川・まんのう）
2022 アートフィールドいわて（岩手・盛岡市）
遊・桜ヶ丘現在進行形野外展（東京・多摩市）
埼玉会館エスプラナード展（埼玉・さいたま市）
2021 アートは壁を越えて（北海道・深川市）
樹林帯 高田芳樹 × 林佳文二人展 SPC ギャラリー（東京・日本橋）
森ラボ・森の美術館「侵入者」（神奈川・横浜市）
2020 アートアイランズ TOKYO 10 Web 上での展開
2019 アートアイランズ TOKYO 9 小笠原会場展（東京・父島町）
かがわ・山なみ芸術祭（香川・高松市）

田中 千鶴子
TANAKA Chizuko

「フレームワーク」

実態はなんなのか、枠組みのかたちだけが思考を駆け巡る、弱い人間、もの、はケージのなかの捉えられの身。

2024 「界」草月流大泉麗仁とのコラボ展・ハウス M 西麻布（東京 個展）
2023 「象・reality」・ ギャラリーー由芽
「あると言ふ不確かな真実・いりや画廊（東京 個展）
埼玉会館エスプラナード展・’ 23 ’ 22 ’20 ’19 ’18 浦和
2021 せきがはら人間村生活美術館（岐阜県）
リニューアルオープン展 屋外鋳鉄彫刻
2020 さいたま国際芸術祭 2020・エスプラナード展
彫刻インスタレーション
2019 東京都現代美術館リニューアル・オープン記念展
「100 年の編み手たち」
うみかギャラリー 個展（香川県多度津）
2017 ギャラリーブロッケン 個展 17. ’18. ’19.（東京）
Art Islands Tokyo2017 in Ogasawara
2016 かがわ・山なみ芸術祭 2016 （香川県）
2015 川口市立アートギャラリーアトリア 個展（鋳鉄作品）
第 5 回アートアイランズ TOKYO・国際現代美術展（東京 大島）
2013 どこかでお会いしましたね展（うらわ美術館、～’ 17）

2012 第五回小江戸トリエンナーレ（川越市立美術館）
2009 Open-air 個展（さいたま市大門造成地、’09～’14
2002 資生堂第5回 ADSP 賞（鋳鉄作品）/ FREIRAUM
（Csongrad, ハンガリー /’07Faro, ポルトガル）
2001 「鋳鉄の形 IRON WORKS」（御茶ノ水画廊）
「鉄の鋳造 “土” Errors from dust」東京小原流会館

仁木 智之
NIKKI Tomoyuki

作品1
「私は自分自身に浸るのを好むが時折誰かも受け入れた
い」 ”I love to immerse myself in myself, but sometimes
I also accept someone else”

制作年：2024年
サイズ：160x940x315mm（本体）1115x1020x380mm（台
座）
素材：木材に一部カラークリア塗装、合成皮革、スピーカー、小型
オーディオアンプ、マイク（オプションにスマートフォン等のMP3 プ
レーヤー再生端末）他

作品2
「それでも共に歩むこと」 ”still walk together”

制作年：2019年
サイズ：535 x1790 x1100 mm（支柱含む） 590 x1790
x1100 mm（本体のみ）
素材：合板、人工皮革、クッション材、スピーカー、自動車用小
型アンプ、小型マイク、バッテリー、テレビモニター、金属パイプ、
ビデオカメラ他

1968 年横浜市生まれ
1998 年ゴールドスミス・カレッジ（英）大学院・修士課程卒
1990 年代より鑑賞者自身の身体の間接的なミクストメディア型
立体作品を制作する。
近年は観賞者が作品に装着や搭乗した際に拘束感や閉塞感の中か
ら自分自身の存在を極めてもどかしい形で他者に伝達する要素を用
いている。
これらを通じて今日のITメディアを中心とするバーチャル型コミュニ
ケーションがその利便性によって主流化して行く中に於いて、改めて自
己と他者との関係性の在り方や共感性、しばしば生じる戸惑いや齟
齬に対してへの互いの向き合い方を問う作品を発表している。

主な個展
2021 工房 CHICA「仁木智之展」（東京）
2008 プラザ・ギャラリー（A HUGE GLASSCASE SHOW）
（東京）
2004 トキ・アートスペース（AWAKE Vol. 5／2004年企画
シリーズ）（東京）
2001 「かながわアートアニュアル2001」神奈川県民ホールギャラ
リー（神奈川）
1999 「セゾン現代美術館セゾンアートプログラム、アートイング199
9：21×21」（東京）
主なグループ展
2024 SOMSOC GALLERY『SOMSOC ART SHOW
24S/S』
2019 トキ・アートスペース「水平思考」（東京）
2013 「秘境を求めて」洞窟現代（神奈川）
2001 「かながわアートアニュアル2001」神奈川県民ホールギャラ
リー（神奈川）
1999 「セゾン現代美術館セゾンアートプログラム、アートイング19
99：21×21」（東京）

細川 麻実子
HOSOKAWA Mamiko

〔脉脈 myakumyaku〕

体内を巡る血液のように
日常の隙間をながれていく

振付家・ダンサー・身体表現
日常でダンスが生まれる瞬間と共存する身体。
幼少より加藤みや子に師事。ベルギーでのダンス留学を経て、公演
の企画制作をする傍ら多分野アーティストとの共同創作等で活動中。

2012ー 振付作品県知事賞受賞、IDO world championship
出場（独）。ほか振付作品入賞。
2014ー 高齢者との共同制作「ひみつ文庫 vol.1～3」「ここか
しこじいじばあばの動きが旅をするー」発表。
2016-19 Art Islands TOKYO 国際現代美術展 参加
（大島・新島）
2019-23 文化庁アウトリーチ公演 企画（四国・埼玉）
2021 コラボレーションツアー「ほらあな」企画
（長野・京都・滋賀・愛知・東京・茨城）
2022-24 埼玉会館エスプラナード展参加
2024 主宰団体 ARU.「聞こえない波」発表

本多 真理子
HONDA Mariko

「道をあけなさい 風のために」
（オノ・ヨーコ「グレープフルーツジュース」より）

この鉄板ピースは土に起こったひび割れの様を鉄板に置き換えた形。
それぞれは個であり集合すると1枚の鉄板に戻る。少しのすき間を
持ちながら。
ジョンレノンが“いちばん偉大な本”と言ったオノヨーコ著「グレー
プフルーツジュース」度々読む。命令調な詩集。
“地球が回る音を聴きなさい”
“太陽を見つめなさい それが四角くなるまで”
“月に匂いを送りなさい”
おもしろい。自分は1枚だが心のピースを自分から離れたらもっと自
由にもっと見えるかとも思えてくる。やがて元の位置に戻る時に少し
のすき間（変化）を持ちながら。そこはいい風が通ることだろう。
その音も聴こえてくるだろう。

主な個展
2024 「そんなに長くなくそれほど短くもない」ぎやらりー由芽
2022 今月一枚 #31 ONVO SALON ×Gallery Pepin
主なグループ展
2023 さいたま 国際芸術祭 2023 市民プロジェクト
「地域経済とアート-アートの住み心地」
2023 エスプラナード展 埼玉会館（美術と街巡り・浦和）
’22,’20,’19
2023 「ビジュツ 行動せよ！展」アーチストセンター展
2020 アートアイランズ TOKYO 2020 第10回国際現代美術展
’19,’18,’17,’16,’15,’14,’13,’11
2019 かがわ・山なみ芸術祭 山の小さな展覧会 / 香川
2017 第20回我孫子国際野外展 / 千葉 ’04,
2016 「福島からの手紙 part2」月光醬油 / 福島
2014 「どこかでおいしかったですね展」うらわ美術館 / 埼玉’13,
2013 「Japanieshe Empfindungen 日本の感性」/ Germany
2013 2013Jara Island Bagat Art Exhibition / Korea
2012 「Thailand-Japan Sculpture Symposium」/ Thailand

松下 誠子
MATSUSHITA Seiko

作品1
「家の舌ー密室の部屋」

素材：丸ゴムロープ、シャワーカーテンに写真（デジタルプリント）、鉄
制作年：2025
サイズ：可変

作品2
「家の舌ー生きる部屋」

素材：石塑粘土、リネン生地、油絵の具、真珠のネックレス、ゴム、鉄
制作年：2023～2025
サイズ：可変

群居本能に駆り立てられて生得的なモジュールを作ってきた私たち人間にとって、家はその中枢のようなもの。私は田中千 TANAKA Chizuko がつくる鉄製のモジュールに丸ゴムのロープを加えてみることにする。
家は重要な砦であり心の拠り所となるシェルターでもある。構成するものが一人で矮小であっても、大多数で壮大なものであっても、どちらも儚い生の群れであることには変わらない。
生息するために必要な物質との関係は絶えず揺らぎ、あらゆる欲が発生しては膨らんだり減少したりする。過剰な力が発生すれば歪みも生じる。外部からは見えないが、それぞれの家には独自の構造と法律を抱えており、まるで特異な舌を持っているかのようだ。
黒い丸ゴムのロープは、束縛とも防衛とも計り知れない密室を抱えることになる。

主な個展

- 2024～25 第1部「中庭のを束縛」第2部「窓枠の叛乱」
FUJI GALLERY SHINJYUKU（東京）
2023 「良心を探して一落下する玩具」太郎平画廊（東京）
2022 「Mother's Voice - Image for the animation」
ATELIER・K（横浜）
2021 「燃えるスカート」UMAKART Gallery（ブルノ / チェコ）
2020 「不可侵のパラフィンドレス」学習院女子大文化交流ギャラリー（東京）

主なグループ展

- 2023 「Womenn's Lives」さいたま国際芸術祭 2023 市民プロジェクト プラザノース・ノースギャラリー（さいたま）
2023 「あなたが眠りにつくところ（松下誠子／ジョイス・ラム）」藤沢市アートスペース（神奈川）
2022 「INTERNATIONAL EXHIBITION FLESHLEGS」
Gallery Heike Arndt
（ベルリン&ケティンゲ／ドイツ&デンマーク）
2019 「東京都セレクション展ー彼女たちは叫ぶ、ささやく」東京都美術館

山本 鍾互
YAMAMOTO Shogo

「風に揺らぐ 変な形」

歳とって気がつくことは、「丸」とか「三角」とかの形のはっきりしたものよりも、ぼんやりした形のない、はっきりした形でないものなどに気が向くことが多い、植物の形一枝や蔓の絡まり方、風になびく草むらの様子、絡まった紐の形などなんとなく惹きつけられる。形を判断することにはそれなりの気力を要するので、その気力がなくなってくるのか・・・体力がなくなると気力もなくなるのである。

2022～2024 ハウスM 西麻布「箱」展

2020 埼玉会館エスプラナード展 2020
参加作品「風・土・光」・「今地球は萎びた茄子のよう、
～地球に同時にいきている～」

- 2018 作品「煙」
2014 京橋 ASK? 個展／札幌現代アート交流展
2010 ギャラリー TOM グループ展
2001 空想・ガレリア（東京）個展
1980～2010 御茶ノ水画廊（東京） 個展
1995～1999 日本橋一番星画廊 個展 数回
1991 オネビオン現代美術ギャラリー（東京）
1983～1989 インターナショナルインパクトアート展
（京都市立美術館）数回

東京藝術大学 美術学部卒業

個人的アートワークの他に、日本各地の現代野外彫刻ならびに近代建築物の保存・修復事業に参加。

<パフォーマンス [脉脈 myakumyaku]>

監修・振付：細川 麻実子

出演：

飯塚 友浩、高橋 純一、ホシノ メグミ、南 阿豆、
宮保 恵、山城 英里香、李 真由子、鷲頭 正子、
細川 麻実子 ※出演者は日によって変動します。

<3月8日 アーティスト・トーク・ライブ ゲスト>

青山 恭之
AOYAMA Yasuyuki

1958年、旧浦和市生まれ。武蔵野美術大学大学院修了。
妻の永田博子とアトリエ・リングー級建築士事務所を主宰、スペース「つきのみちくさ」を運営。武蔵野美術大学、埼玉大学等での非常勤講師を経て、現在、ものづくり大学非常勤講師。浦和建築塾代表。美術と街巡り・浦和実行委員会事務局長。青少年育成浦和高砂地区会会長としても活動。

作品のご感想を WEB アンケートフォームにてお寄せください。

<https://x.gd/eECa5>